

(様式1)

校 種	① ・ 中 どちらかに○	学校番号	4 7	学校名	宇都宮市立雀宮中央小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	--------------

令和5年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

自主・自律の精神と豊かな心をもった、心身共に健康な児童を育成する

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- 明るく元気でがんばる子ども（元気）
- 進んで学びよく考える子ども（やる気）
- 心豊かで思いやりのある子ども（思いやり）

合言葉 「元気 やる気 思いやりのある 雀央っ子」

2 学校経営の理念

学校は、児童にとって、安心かつ安全な場所、楽しく前向きなエネルギーをもった場所でなければならない。児童は、そのままの自分を受け入れてくれているという安心感の中で自己の存在感を感じ、互いに切磋琢磨して自己を成長させ、困難に負けない強さを身に付けていくことができる。そして、未来に向かって夢をもち、道を切り開いていく力を蓄えることができる。

また、学校は、学びの面白さを実感できるところでなくてはならない。児童は、主体的・対話的な学びを通して、分かる楽しさや自己の力の向上に気づいていく。

そのために、教職員が、常に前向きな姿勢で職務に取り組み、児童一人ひとりと向き合い、互いにチームとして支え合い、絶えず研修に励んで専門性を高めて授業力を向上させるとともに、保護者や地域住民と連携し、信頼関係の下、共に子どもたちを育てていくことのできる学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針

(1) 成長し続けるための基盤を培う

社会がどのように変化しようとも、生涯にわたって成長し続けることができるよう、基盤となる知・徳・体のバランスのとれた力を育成する。

(2) 安心と成長の場となる学校をつくる。

温かい人間関係の下、児童一人ひとりのよさと可能性が生かされた、行きがい・居がいのある学校を作る。

(3) 基礎・基本を確実に定着させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標をもち、自ら学ぶ意欲を育む。

「学習意欲を高める授業」「学習内容が確実に定着する授業」「主体的・対話的に学び合う授業」づくりを工夫する。

(4) 自信とたくましさ（折れない心・粘り強さ）を育成する。

自己肯定感を高め自信をもって活動できる児童、困難に負けないたくましい心をもった児童の育成のためキャリア教育の充実を図る。

(5) **健康を管理する力・危険を回避する力を育成する。**

生涯に渡って、心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。

(6) **未来を生き抜く力を養う。**

ICTを効果的に活用しながら、グローバル化や情報化の一層の進展など、未来の急激な時代の変化に向き合い、生き抜くための資質・能力を育成する。

(7) **信頼される教職員を育て、学校のチーム力の向上を図る。**

学校における働き方改革の一層の推進を図り、時間と心にゆとりをもち、教職員の健康安全を大切にしながら全教職員が自己の持つ能力を最大限に発揮できるチームを作る。

(8) **地域とともにある学校づくりを推進する。**

保護者や地域と思いを共有し、**児童の社会と関わる力**、よりよく学びよりよく生きていく力を身に付けるための環境を整える。

[雀宮地域学校園教育ビジョン]

一人一人が自らのよさを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～ 生き生きとした活動を通して ～

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ・ 知・徳・体の調和のとれた発達を目指すため、各教科・道徳科・総合的な学習の時間・特別活動の相互の学びの関連を図った編成を行う。
- ・ 地域学校園教育ビジョンである「一人一人が自らのよさを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成」を目指す教育課程となるよう、9年間の学びの連続性を考慮した編成を行う。
- ・ 保護者や地域住民の願いを踏まえ、本校の教育の目指すところを共有し、地域の教育力が生きる編成を行う。

(2) 留意点

- ・ 昨年度の各種調査等の結果を踏まえ、知・徳・体の課題を明確にして指導の重点化を図る。
- ・ 教科横断的な視点をもち、各教科間または各教科の学習内容に関連する道徳科・総合的な学習の時間・特別活動の実施内容や時期を考慮するなど、カリキュラムマネジメントの充実に努める。
- ・ 地域の教育資源を把握し、教育活動の中に積極的に取り入れる。
- ・ 地域学校園児童生徒の課題から、今後育てていきたい力を明確にし、共通実践等を取り入れる。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

業務の内容を見直し、効率化を図ることで、**児童と過ごす時間を大切にするとともに、教職員が持てる力を有効に発揮し、チームとして動ける学校づくりに努める。**また、地域の教育資源を生かした教育活動、小中が連携した継続的な教育活動により、地域とともにある開かれた学校づくりを行う。

- ・ 温かい人間関係の下、児童一人ひとりのよさと可能性が生かされた、行きがい・居がいのある学校を作る。
- ・ 若手教職員に対する OJT の推進と、互いに学び合えるチーム作り
- ・ 全教職員が必要な情報を共有し、互いの要請に応え合えるチーム作り
- ・ 教職員が、心身ともに健康な状態で職務を遂行するための業務の改善の視点の共有と勤務時間を意識した働き方の推進
- ・ 地域の教育力を生かし学びを深めるため、地域協議会や関係機関及び団体等と連携し幅広い人材を活用
- ・ ○地域学校園内での情報交換を密にし、各校の課題等について解決の方向性や対策に対する見解を話し合い共有
- ・ 児童の育成について思いを一つにし、家庭・地域と連携しながら、信頼される学校作りを推進

(2) 学習指導

「学習意欲を高める授業」「主体的・対話的に学び合う授業」「学習内容が確実に定着する授業」づくりを工夫する。

- ・ 「宇都宮モデル」(はっきり・じっくり・すっきり)を踏まえた授業改善
- ・ 「はっきり」…実生活に関わる教材の提供、思考・判断・表現を促す問いの工夫。
- ・ 「じっくり」…協働的解決のための時間の確保、事前の授業の様子の的確な想定、適切な評価ときめ細かな指導の充実。
- ・ 「すっきり」…児童の学びをもとに結論をまとめる、言語による振り返りの充実、習得した知識の活用と定着を図る。
- ・ 課題に粘り強く取り組む力、主体的に学習を調整していく力の育成。
- ・ 授業の質的向上を図る一人一台端末の効果的な活用。
- ・ 特別支援教育の視点を取り入れ、児童の発達の特長や理解度に応じた個別最適な指導の充実
- ・ 人権教育では、教科等で「子どもの権利」についての理解を深める指導を行う。
- ・ 主権者教育では、学級活動及び児童会で、合意形成を図れるよう指導の充実を図る。
- ・ SDG s 等現代的な課題に対応するための、問題解決的な学習と教科横断的なカリキュラムマネジメントの充実
- ・ ○児童が自身の変容や成長を自己評価することで、将来の夢や目標をもたせる「宮・未来キャリアパスポート」の活用の工夫
- ・ 情報活用能力の育成とデジタル・シティズンシップ教育の充実
- ・ 自分たちの市や町に対する理解を深め、誇りがもてるようにするための、生活科や総合的な学習の時間の充実(「宇都宮学」「雀宮についての学習」「雀央サミット」)
- ・ 英語教育・国際理解教育の充実

(3) 児童生徒指導

「魅力にあふれ安心して過ごせる学校」にするとともに、自己肯定感を高め自信をもって活動できる児童、挑戦する心、あきらめない心などのたくましさの涵養に努める。

- ・ ○教育活動全体を通した「宮っ子心の教育」の推進と道徳の授業の充実
- ・ 自信や自己有用感の向上を図るための、認め・褒め・励ます指導
- ・ 豊かな感性を育む体験活動・読書活動の充実
- ・ いじめの解決に向けて自主的な行動を促す機会や場の設定
- ・ 不登校を生まないチーム支援の充実
- ・ 一人ひとりの教育的ニーズに対応するための多様な学びの場の提供

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

生涯に渡って、心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。

- ・ 運動に親しみ、運動量を確保する活動の工夫
- ・ 健康を脅かすさまざまな要因の理解と健康を管理する能力の育成
- ・ ○食事の重要性や栄養バランス等、より良い食生活についての指導
- ・ 危険を予測し、自分の命を自分で守り抜く行動力の育成

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

- ・ 児童会が主体となり、学校、家庭、地域が一体となって、学校及び地域をよりよくするための活動を企画したり実践したりすることを通して、自分の考えや思いをしっかりと伝えるコミュニケーション能力を育成する。
- ・ 校外学習等で地域に目を向け、良さを発見することを通して、地域に対する思いを育成する。

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

- ◇ 学校、地域をよりよくするため、地域の自治会と協力して「雀央サミット」の企画・運営・実践を行う。
- ◇ 地域の教育資源（歴史的遺物・地域に詳しい人材）を発掘し、総合的な学習の時間を中心に発達段階に応じて、地域の特徴やよさに気付く活動を行う。

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

①基本的考え

- 地域と一体となって子どもたちを育むためには、地域の実情や学校に対する願いを理解しなければならない。そのために、地域協議会の協力を得ながら学校の教育活動を見直す。
- 雀宮地区の行事に児童が参加することは、地域への関心を高めることにつながる。それによって、地域とのかかわりを強めることもできる。

②主な取組

- 児童会が主体となって取り組む「雀央サミット」の活動において、保護者・地域住民の方と共通の話題を通してコミュニケーションを図ることで、児童たちと保護者・地域住民が一体となった活動を進める。
 - ・ 公園、神社の清掃活動
 - ・ ごみのない地域づくり（公園）のためのポスター作り
 - ・ 除草 等
- 雀宮地区の行事への参加
- 魅力ある学校づくり地域協議会との連携による学校支援ボランティアの募集と活用

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

- 雀宮地域学校園の経営方針「一人一人が自らのよさを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成 ～ いきいきとした活動を通して ～ 」のビジョンから、特に学習指導を重点として確かな学力を身に付けさせるようにする。
- 互いの学校における課題や取り組みを共有する。

②主な取組

- ・ふり回り活動とそれを生かした家庭学習の充実（家庭との連携）
- ・小中連携あいさつ運動の実施
- ・各部会や分科会，管理職のこまめな情報交換

（３）不登校対策

①基本的考え

- 新たな不登校を生まないため，不登校の解消を目指すために，温かで安心感のある学級づくりを行う。
- 不登校に対する教職員一人一人の意識を高めるとともに，学校の対応力を向上させ問題の未然防止や早期発見・早期対応に組織として取り組む。
- 児童・保護者との信頼関係を築き，保護者の理解や協力を得ながら，チームで当該児童の支援にあたる。

②主な取組

- ・保護者との積極的な関わりによる不登校要因の分析と支援
- ・違いや失敗を認め合う学級づくり
- ・自己肯定感を高める日々の言葉かけ
- ・「欠席状況共有シート」等を活用した児童の状況の共有
- ・欠席した児童への電話連絡，家庭訪問，日々の言葉かけの確実な実施
- ・不登校対策担当教員を中心とする組織的対応
- ・やむを得ない事情で**登校できない状況にある児童**について，端末を活用した学習のフォロー（端末を使った**連絡・課題の提示**，AIドリルの活用等）を行う。
- ・Q-U検査の結果の活用

（４）GIGA スクール構想

①基本的な考え

- 一人一台端末の活用を通し，これからの社会を生きるために必要な機器操作スキルや情報活用力を育成する。
- 児童が一人一台端末を新たな文房具として慣れ親しめるよう，あらゆる教科，あらゆる活動において活用する場面を積極的に創出する。
- 教職員が，一人一台端末の効果的な活用方法を研究し，実践して情報を共有する。
- 一人一台端末を使うことによって可能になる時間的・空間的制約を超えた学習のあり方や研修の方法を模索し，実践していく。

②主な取組

- ・ 一人一台端末の効果的な活用方法について，教職員の研修を行う。
- ・ **基本的な操作スキル**（音声やタイピングによる入力，検索，学習で使用するアプリなどの操作スキル）や**情報モラルが発達段階に応じて習得されるよう，系統的な指導**を行う。
- ・ あらゆる教科，あらゆる活動において，調べ学習や反復学習，プレゼンテーション資料の作成等に活用するとともに，**学び合いの効果を高めるツール**として活用する。
- ・ 授業検討会等，情報共有や意見交換が必要な**職員研修の場面で端末を積極的に活用**し，職員同士の協働性を高めるとともに，時間や空間に制約されない研修を展開していく。
- ・ 一人一台端末の取り扱いについては，随時，保護者への情報提供及び啓発を図る。

（５）宇都宮学

①基本的な考え

- 自分たちの市や町に対する理解を深め，誇りがもてるようにするための，生活科や総合的な学習の時間を中心に，「宇都宮学」や歴史のまちである雀の宮についての学習に積極的に取り

組む。

②主な取組

- ・ 各学年ともに、道徳の地域教材及び「宇都宮学」の副読本を通して「宇都宮」について学び、考える。
- ・ 2年生生活科「じゃくおう小子どもマップを作ろう」において、学校周辺の主な施設等について調べる。
- ・ 3年生総合的な学習の時間「発見！すずめのみや」では、2年生よりの範囲を広げて地域を探検したり、体験活動を行ったりしてその特徴やよさを知る。
- ・ 4年生総合的な学習の時間「宇都宮市のよさをみんなに伝えよう」では、市内に出かけ、施設・史跡等の見学やインタビュー等を通して、実際に宇都宮市のよさに触れる。
- ・ 5年生総合的な学習の時間「住みやすいね！宇都宮」では、4年生の学習の上に更に自然環境や交通と言った新たな視点を設け、包括的に宇都宮市の住みやすさについて学ぶ。
- ・ 6年総合的な学習の時間「WE LOVE 雀宮」では、まず宇都宮の歴史や文化について学んだ上で雀宮地域に視点を戻し、社会科で学んだ歴史の視点を加えて雀宮について深く学ぶ。さらに、雀宮をよりよい地域にしていくために自分たちにできることを考え、「雀央サミット」を開催して、地域に提案する場を設ける。